



2022-2023 年度
11月号
NO. 398

強調月間

B F

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HIGASHI

CHARTERED 1988

〒135-0016 江東区東陽 2-2-20 東京 YMCA 東陽町コミュニティーセンター内 TEL03-3615-5565

国際会長：K・C・サミュエル(インド)「フェローシップとインパクトで次の100年へ」
アジア太平洋地域会長：チェン・チン・ミン(台湾)「新しい未来と共に、エレガントに変化を」
東日本区理事：佐藤重良(甲府 21) 主題:「未来に向けて今すぐ行動しよう」
関東東部部長：工藤大丈(東京 伊豆) 主題:「新規技術を縦横に駆使し、効率を重んじる」
東京ひがしクラブ会長：千代一郎 主題「楽しさをベースに、持続可能なワイズ!!!」

11月例会(館外)

＝新木場と夢の島でアートを探すお散歩＝

とき 2022年11月13日(日)
東陽町 UFJ 銀行前 9時集合
(新木場循環バス停前)
又は夢の島バス停 9時30分



★プログラム

木工加工で出た端材を活かした作品展。新進気鋭のアート作家達の彫刻作品が、熱帯植物館(夢の島)・木材会館(新木場)など、8エリアに展示されているアートを探すウォークです。

(わくわくおさんぽアートフェスタ開催中)

🕊 今月の聖句 🕊

『だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう』

—マタイによる福音書 第22章—21節—

強調月間

11月は「ビルディング・フェローシップ」の強調月間です。プログラムの推進、クラブ会員の意識向上、基金への寄付とBF代表、ホストへの申請の両方に焦点を当てましょう。「ビルディング・フェローシップ」は、「ブラザーフード基金」の新しい名称です。2022年に名称が変わりましたが、基金の目的は変わりません。(国際ニュースより)

10月例会報告

須田哲史

10月の例会は、東京YMCA日本語学院の望月温校長をお招きして「日本語学校と留学生の基礎知識」をテーマに講演をいただきました。(以下、その内容)

全国の日本語教育機関数の数は819校。2007年、政府が留学生30万人計画(2020年までに、優秀な留学生を30万人獲得)を推進したことで、留学生数は増え続け、東京都内251校。江東区内6校という中、過酷な生徒募集活動の中で頑張っています。ただ、新型コロナウイルス感染拡大により、新規入国者は激減。ようやく、快復の兆しが見えつつある状況です。

日本語学校ビジネスは、留学エージェントからの留学生紹介による募集活動になりますが、ビザの交付率によって、エージェントへの留学仲介手数料が決まるため、交付率の高い国の手数料が高くなるため、学校経営の収支に直結しています。

留学生の業務支援は、文部科学省(日本語教育推進法に基づく教育推進)、外務省(ビザ発給)、法務省(在留資格許可等、在留カード)、市・区役所(住民票、国民健康保険)等で多岐にわたります。留学生の留学希望理由は、安い費用で高レベルの高等教育を受講でき、日本語を武器にキャリアアップなること。日本社会や文化への関心が高く、就職先・定住先としての魅力もあることです。課題は、在籍期間は最大2年間であるため、非漢字圏学生にとって、学びの時間が足りない、アルバイトの時間数制限や特定技能ビザ制度の面で、優秀な外国籍人材確保が難しいことです。また日本の企業の就職後の人材育成が整備されていないため、帰国者が多
(2ページへ)

10月例会

出席者 9名 ビジター 1名
会員出席数 8名 ゲスト 名
在籍数 12名
(広義会員2名)

ひがし会員出席率 80%

スマイル

2022-2023 年度
7月 17,000 円

2022-2023 年度役員

会長 千代一郎
副会長 金丸満雄
書記 金丸満雄
会計 須田哲史
担当主事 沖 利柯



YMCAコーナー

担当主事 沖 利柯

いのも現状。世界の中での人材獲得競争の中で留学先
に選ばれているのか、甚だ疑問です。

日本としても、優秀な外国人材を定住させられる取組
みが重要で、読む・聞く中心から、対人能力や交渉力
のある人材を把握できるような試験制度改革、大学や専
門学校からの就職率のアップ、卒業後は専門分野での
在留資格が取得できやすいように、将来を考えた進路
選択ができるように・・・といった日本語教育機関から
始まるキャリア教育をスタートさせるが重要だと考え
ています。日本文化の最大の特徴は「寛容性」。異なる
文化を排他的に扱うのではなく、自国の文化と融合し、
ハイレベルに昇華させることが需要と考えています。

以上でしたが、現在の円安状況を考えると、もっと欧
米の留学生もターゲットにする話もありましたが、こ
うした地道な努力が重要なのだと気がさせられました。

江東区民まつり奮闘記

10月15・16日、3年ぶりに開催された「江東
区民まつり」に参加した。今回、初めてポップコーン
に挑戦。初体験であること、メンバー減と体力低下
等々不安材料があったが、ふたを開けるとひがしの
イベント魂と応援者の支えと好天気で不安が吹き飛
んだ。コロナで中止となった各イベントが再開とな
り、この日を待ち望んだ多くの来場者で区民まつり
は大盛況。わがポップコーン店も気が付けば大行列
となり、用意した3台の機械がフル回転しても追いつ
かないうれしい悲鳴。モコモコと出てくるポップ
コーンに、ちびっ子たちは興味津々の眼差し。その熱
い視線を浴びおじさんたちは奮闘。久しぶりのイベ
ントに、心地よい汗をかいた。

二日間、共に汗を流し協力してくれた東陽町コミ
スタッフの皆さんに感謝です。お疲れ様でした。



★今月の誕生日

- 鮎澤正和メン(18日)
- 沖 利柯メン(17日)
- 金丸満雄メン(21日)
- 鮎澤範子メン(30日)

★今月の結婚記念日

- 千代一郎・澄子夫妻(3日)
- 野澤一弘・寛子夫妻(23日)



▼早天祈祷会 100年

1922年10月にはじまった「早天祈祷会」が100
年を迎えたのを記念し、10月3日に「早天祈祷会/
100年記念交流会」をハイブリッド形式(山手センタ
ー及びオンライン)で開催し、39人が参加しました。
堀口廣司氏(学校法人東京YMCA学院長)による奨励
に続き、齊藤貴氏(元東京YMCA副総主事・YMCA
史学会理事長)より歴史資料や写真を交えながらお話
を伺い、100年の歴史を振り返る時間を持ちました。

▼第36回インターナショナル・チャリティーラン結果

今年も歩数計アプリを利用したウォーキングイベ
ントとして開催。10月15日~22日の「らくらくウォ
ーク」(個人参加)には118人が、10月22~30日
の「チームレース」には46チーム706人が参加しま
した。東陽町チームには金丸さん、竹内さん、沖ほか20
名が参加し、15位と健闘しました。1位は上田八木短
資株式会社で一人の一日平均歩数は36,294歩!東陽
町チームは14,472歩でした。

▼ウクライナ支援募金

第1期(開始~4月)、第2期(5~8月)合わせて
11,238,924円が寄せられた。東京YMCAはウクラ
イナYMCAに2回にわたり合計\$30,000を送金し、
ウクライナYMCAが現地で行う子どもたちをケアす
る活動などを支援しています。12月14日には、ウク
ライナYMCA総主事他から現地の様子や支援活動に
ついて聞く「ウクライナ支援報告会」をオンラインで開
催する予定です。

▼クリスマスオープンハウス

12月11日(日)
11:00~15:00で
実施する方向で準備が
始まりました。今年は
感染症予防対策を行
いながら、できるだけ従
来の形に戻したいと思
っています。バザー献
品も始まりました。ま
たラッフル抽選券販売
へのご協力もよろしく
お願いいたします。



▼会費がネットバンキングで

ご要望の多かった会費のネット支払いが可能となり
ました。詳細は東京YMCAのホームページをご覧ください。
その画面からご利用が可能となっております。